

井上義夫（著作）年譜

- 一九四六年（昭和二十一年）九月二二日 徳島県勝浦郡字小松島町（現在の小松島市小松島町）に生れる
- 一九六五年 三月 徳島県立城南高等学校卒業
- 四月 一橋大学経済学部入学
- 一九六八年 三月 「革命に醸す青春——奥浩平論」『ヘルメス』
- 一九六九年 三月 一橋大学経済学部卒業
- 三月 『方法』の問題について（一橋大学経済学部卒業論文）
- 四月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程入学
- 一九七一年十二月 「死界と闇——D・H・ロレンスの直観をめぐって——」『一橋研究』第二二号、一一—一七頁
- 一九七二年 三月 一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了
- 三月 Humanity and Tenderness in D. H. Lawrence's World（一橋大学大学院社会学研究科修士論文）
- 四月 一橋大学大学院社会学研究科博士課程進学
- 一九七三年 七月 『白い孔雀』論——D・H・ロレンスと自然の生態——『一橋研究』第二五号、三二—四八頁
- 十二月 「D・H・ローレンスと『恋しい息子たち』」『一橋研究』第二六号、一一三—一二五頁
- 一九七四年 三月 一橋大学大学院社会学研究科博士課程退学
- 四月 相模女子大学短期大学部英文科専任講師

- 一九七五年 二月 「死蔭の愛——D・H・ロレンスの『恋する女』をめぐる——」『相模女子大学紀要』第三八号、四五—五一頁
- 一九七六年 二月 「ヴァージニア・ウルフに於る小説の響について」『相模女子大学紀要』第三九号、四三—五三頁
四月 相模女子大学短期大学部英文科助教授
- 一九七七年十二月 書評「Harry T. Moore: *The Priest of Love: A Life of D. H. Lawrence*」『言語文化』（一橋大学語学研究室機関誌）第一四巻、一一—一三頁
- 一九七八年十一月 「ロレンス・ダレルと現代の迷路——『黒い本』の周辺——」『一橋論叢』第八〇巻第五号、六四四—五九頁
- 一九七九年 三月 「*Lord Jim: A Victory of Illusion*」『相模女子大学紀要』第四二号、二二三—三一一
- 一九八〇年 四月 一橋大学法学部助教授
- 一九八一年 二月 詩集（筆名井上詠）『大和島根遙か』風人社
- 十一月 「『チャタレー夫人の恋人』について」『一橋大学人文科学年報』第二二巻、二九五—三四六頁
この頃詩「歸心」執筆
- 一九八二年 二月 翻訳『ロレンス・ランガー著 ホロコーストの文学』（共訳）、晶文社
- 十二月 書評「John Worthen: *D. H. Lawrence and the Idea of the Novel*」『言語文化』第一九号、七七—八〇頁
- 一九八三年 七月 小説（筆名井上詠）「二等船室」新潮新人賞候補作になる『新潮』に選評掲載される（一七〇—一七三頁）
- 八月 「ロレンス・ダレルの『ジュスティヌ』について」『一橋論叢』第九〇巻第二号、一九〇—二〇八頁
- 九月 詩（筆名井上詠）「Franz Schubert」「J. S. Bach」『玻璃』第二号、玻璃舎
- 十月 ケンブリッジ大学客員研究員（一九八五年三月迄）
- 『ロレンス 存在の闇』小沢書店

- 一九八四年 九月 詩（筆名井上詠）「晩日」『玻璃』第三号、玻璃舎
- 一九八五年十二月 『ジュスティヌ』から『バルタザール』へ』『一橋論叢』第九四卷第六号、九二七—四一頁
- 一九八六年 三月 「某日、保田氏に至る」『保田與重郎全集第五卷』月報、講談社
- 十月 翻訳（筆名高木しま子）『クリスティン・ジェームズ著 デザートより甘く』ハーレクイン・エンタープライズ日本支社
- 一九八七年 一月 翻訳（筆名高木しま子）『シャロン・ブロンド著 愛のハーモニー』ハーレクイン・エンタープライズ日本支社
- 五月 『『マウントオリヴ』と『クレア』』『一橋大学人文科学年報』第二六卷、一七五—二一〇頁
- 一九八九年 三月 「ある邂逅——フリーダ・ロレンスの謎——」『一橋論叢』第一〇二卷第三号、二七五—九四頁
- 一九八九（平成元年）十二月 『シグムンド・サガ』から『侵犯者』へ』『言語文化』第二六卷、三七—四七頁
- 一九九〇年 三月 「D・H・ロレンスとキャサリン・マンズフィールド——一九二〇年二月の書簡をめぐる——」『一橋論叢』第一〇三卷第三号、三五〇—五七頁
- 四月 一橋大学法文学部教授
- 一九九一年 二月 解説、年譜「ロレンス」『集英社ギャラリー（世界の文学）4 イギリスⅢ』集英社、一二〇—二八頁
- 三月 「ロレンス神話」の在処——公的記録に見るロレンスの母の家系』『一橋論叢』第一〇五卷第三号、三七—八一頁
- 一九九二年 八月 「伝記の陥穽——ケンブリッジ大学出版局版ロレンス伝第一巻をめぐる——」『一橋論叢』第一〇七卷第三号、三八—四〇一頁
- 九月 「イギリス的野生——エドワード・カーペンターの場合』『KAWASIMA』第三三号、川島織物、三九—四二頁
- 『薄明のロレンス（評伝D・H・ロレンスI）』小沢書店

十二月 「D・H・ロレンス 異端という名の醇朴——晩年の絵画」『ユリイカ』一一四—二四頁

一九九三年 十月 『新しき天と地（評伝D・H・ロレンスⅡ）』小沢書店

十一月 インタビュー記事「改革という名のもとに」『一橋マーキュリー』第三九号、一四—一九頁

一九九四年 一月 「フォースターとD・H・ロレンス」『E・M・フォースター著作集第一巻』月報、みずが書房

五月 「インタビュー記事」改革という名のもとに」への抗議文」『一橋マーキュリー』第四〇号、三一頁

十月 『地霊の旅（評伝D・H・ロレンスⅢ）』小沢書店

十二月 書評「石井桃子『幻の赤い実』』『東京人』一三八頁

一九九五年 二月二〇日 インタビュー記事「人生と芸術、等分に重ね合わせて 過激な『近代批判』に迫る」『読売新聞』夕刊

三月 『評伝D・H・ロレンス』（全三巻）により第八回和辻哲郎文化賞（一般部門）受賞、「受賞のことは」、選考委員評は『和辻哲郎文化賞二〇年記念誌 人間としてあること』姫路文学館、二〇〇九年九月、八二—八五頁に掲載

五月 書評「R・ヴルピッタ『不敗の条件』』『新潮』二九六—七頁

八月 「死者の扶け——E・M・フォースター『ハワーズ・エンド』を読む」『三田文学』四二号、二二—四〇頁

「保田與重郎の現在」『新潮』、二五六—七〇頁

九月 『一橋大学百二十年史——Captain of Industry をこえて』（共著）、一橋大学

十月 「戦後」との共生——三島由紀夫の裏側』『イロニア』第一〇号、新学社、三四—四五頁

十一月 「日本人論」を排す』『ca』、富士総合研究所、三八—四〇頁

一九九六年 書評「杉本秀太郎『私の歳時記』」朝日新聞夕刊（『わたしの「心の書』』、朝日新聞社、一九三頁）

書評「ハナ・アーレント『全体主義の起源』」朝日新聞夕刊（『わたしの「心の書』』、朝日新聞社、一九九六

年、一九四頁)

書評「小川国夫『生のさ中に』」朝日新聞夕刊(『わたしの「心の書』』、朝日新聞社、一九九六年、一九五頁)
書評「桶谷秀昭『昭和和精神史』」朝日新聞夕刊(『わたしの「心の書』』、朝日新聞社、一九九六年、一九六頁)

一九九六年 一月 「「個」の脱落——文学と宗教」『新潮』三二〇—二八頁

四月 「「性」と吸血鬼」『新潮』一七〇—七九頁

五月 一橋大学大学院言語社会研究科教授(二〇一〇年三月迄)

五月 一橋大学評議員(一九九九年三月迄)

六月八日 インタビュー記事「私の『中毒書』日記 古今東西の名著を学際的に読む」『週刊現代』一〇七頁

八月 「風のことぶれ——村上春樹の宇宙(1)」『新潮』二二六—七〇頁

十一月十五日 「二十世紀の古典 D・H・ロレンス 発熱する『時代』の身体」朝日新聞

十一月 「水のいざなひ、物語の誘ひ——村上春樹の宇宙(2)」『新潮』三二六—五七頁

一九九七年 五月 「時」の曙——村上春樹の宇宙(3)」『新潮』二五六—九五頁

十月 「アメリカの幻燈——村上春樹の宇宙(4)」『新潮』二六二—九二頁

一九九八年 六月 「記憶の埋火——村上春樹の宇宙(5)」『新潮』二三〇—七五頁

六月 「弔辞」、小説(筆名私部長慶)「黄色い電車」、詩(筆名井上詠)「アルスの景色」、「後記」『玻璃』第
四号(関川左木夫追悼号)、玻璃舎

十一月二日 書評「シャルル・ボードレル『悪の花』(杉本秀太郎訳)」、山陽新聞

一九九九年 一月 「文芸時評」『新潮』二五六—六〇頁

二月 「文芸時評」『新潮』二五六—六〇頁

三月 「文芸時評」『新潮』二二四—二八頁

四月 「文芸時評」『新潮』二五六—六〇頁

- 六月 「記憶の歩み——川端康成」の誕生』『新潮』七五—一〇八頁
- 七月 『村上春樹と日本の「記憶」』新潮社
- 二〇〇〇年
- 一月 解説「ぬばたま開く」、『保田與重郎文庫第四卷』新学社、二八五—九二頁
- 三月 書評「David Ellis, D. H. Lawrence: *Dying Game 1922-1930*」『D・H・ロレンス研究』（日本ロレンス協会機関誌）第一〇号
- 五月 一橋大学大学院言語社会研究科長、一橋大学評議員（二〇〇二年五月十日迄）
- 七月 エッセイ「小心地滑」、『新潮』二八八—九頁
- （共著、編集）*Hirotsuboashi University 1875-2000: A Hundred and Twenty-Five Years of Higher Education in Japan*, London: Macmillan
- 二〇〇一年
- 十月 解説「賛」、杉本秀太郎『神遊び』展望社、二六五—八三頁
- 三月 Interview, “The Man Who Strunk of Butter: Haruki Murakami”, BBC Radio
- 四月十五日 書評「T・S・エリオット『エリオット評論選集』（白井善隆訳）」北海道新聞
- 六月十三日 書評「木原誠『イエイツと夢』」、北海道新聞
- 八月十二日 書評「アナトール・フランス『赤い百合』（杉本秀太郎訳）」、北海道新聞
- 十一月 エッセイ「虫のたましひ』『ずばる』、一五〇—五一頁
- 二〇〇三年 博士（学術、一橋大学）
- 四月 ウィーン大学客員教授（二〇〇四年三月迄）
- 四月から十一月まで 解説「D・H・ロレンス『息子と恋人たち』、「原書で読む世界の名作」、NHKラジオ放送、全三十五回
- 二〇〇五年 三月 『母親殺し』神話としての『息子と恋人』、『テキストの地平——森晴秀古希記念論文集』南雲堂、三三九—五一頁

- エッセイ「文藝の奇しき宝」『GENSHA 生死を紡ぐことば』一橋大学大学院言語社会研究科、一四頁
- 八月 エッセイ「道に迷う」、『言語』、大修館、四―五頁
- 二〇〇七年十二月 「ポール・オースターの詩「契約」をめぐる」、『言語文化』第四四卷、六八―七二頁
- 二〇〇八年 三月 「世界、言葉、詩人——ポール・オースターの詩」、『言語社会』第二卷、一橋大学言語社会研究科、一七六―一九一頁
- 二〇〇九年 三月 エッセイ「文藝の真贋」『世界を記述せよ そして自身を知れ』一橋大学大学院言語社会研究科、一四頁
- 二〇一〇年 一月 翻訳『コンラッド短編集』ちくま文庫、筑摩書房
- 解説「ジョウゼフ・コンラッド」、『コンラッド短編集』、ちくま文庫、筑摩書房
- 四月 一橋大学名誉教授
- 一橋大学大学院言語社会研究科特任教授
- 十一月 翻訳『ロレンス短編集』ちくま文庫、筑摩書房
- 解説「D・H・ロレンス」、『ロレンス短編集』ちくま文庫、筑摩書房